

〈きょうを生きるあなたとわたしのための演劇〉

「SPAC秋のシーズン2025-2026」#3

多田淳之介×SPAC 待望の新作！ ガリレオの生涯が照らすパラダイムシフトの円環

『ガリレオ～ENDLESS TURN～』

プレス関係各位

平素より、SPAC-静岡県舞台芸術センターに格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

SPAC-静岡県舞台芸術センターの「SPAC秋のシーズン2025-2026」では、アーティストック・ディレクター石神夏希による〈きょうを生きるあなたとわたしのための演劇〉というメッセージのもと、第一線で活躍するアーティストたちによる3作品を静岡芸術劇場ほかにてお届けしています。シーズン3作目は、多田淳之介が演出する『ガリレオ～ENDLESS TURN～』を1～3月静岡芸術劇場にて上演します。

■フェイクニュースが溢れる時代に描く“真理の追究”

2026年に没後70年を迎えるドイツの劇作家、演出家のベルトルト・ブレヒト。ナチスの迫害を逃れ生きたブレヒトが、ガリレオ・ガリレイの半生に自身を投影したともいえる戯曲『ガリレオの生涯』を、多田淳之介の演出により『ガリレオ～ENDLESS TURN～』として上演します。ガリレオは天動説が常識の時代に地動説を唱え、教会から異端として自説の撤回を余儀なくされましたが、秘かに「新科学対話」を完成させました。17世紀に起きたこの天動説から地動説への転換は、科学が日常生活に広がり始めた20世紀、そしてAIやテクノロジーと共に生きる現代にも通じる、パラダイムシフトの軌跡を描き出します。多田は、ブレヒトが原爆投下などの世界情勢を捉えながら改訂を重ねたことにも関心を寄せ、そこに現代からの新たな視座を加えることで、総勢20名のSPAC俳優と共に、いまの時代に呼応する作品を立ち上げます。

■時代を超えて巡る“ENDLESS TURN”

台本・演出を手がける多田淳之介は、今作がSPACでの3作目の演出となります(2018年芥川龍之介作『歯車』、2023年川端康成作『伊豆の踊子』)。多田は副題の「ENDLESS TURN」に、人は何千年も前から正しさをめぐって衝突を繰り返し、いまま同じ問いを抱え続けているという実感を込めました。しかし、その反復は同一ではなく、時代ごとに少しずつ姿を変えながら続いていきます。その終わりのなさにこそ未来を照らす手がかりを見だし、劇場に集う人々と共に、未来を前向きに思い描ける作品を創りたいと語っています。今作では台本作成にAIを活用しながら、人類史から始まり、ガリレオの時代とその先までを描きます。古典から現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品などジャンルを自在に横断する多田の演出と、空間と時間をデザインするカミイケタクヤの美術が、客席を巻き込みながらどのような舞台を創り上げるのか、ぜひご注目ください。

『ガリレオ～ENDLESS TURN～』

台本・演出：多田淳之介 原作：ベルトルト・ブレヒト

美術デザイン：カミイケタクヤ

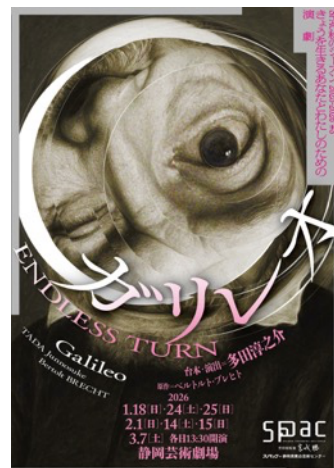
出演：石井萌水、大内智美、大高浩一、蔭山ひさ枝、春日井一平、加藤幸夫、河村若菜、木内琴子、小長谷勝彦、桜内結う、佐藤ゆず、鈴木真理子、鈴木まり、永井健二、中野真希、牧山祐大、三島景太、吉植荘一郎、渡邊清楓、渡辺敬彦

会場：静岡芸術劇場

＜一般公演＞各日13:30開演

1月18日(日)、24日(土)、25日(日)、2月1日(日)、14日(土)、15日(日)、3月7日(土)

上演時間：120分程度 日本語上演／英語字幕(2月14日、2月15日、3月7日のみ)



<中高生鑑賞事業公演> 1月13日(火), 14日(水), 15日(木), 16日(金), 19日(月), 22日(木), 23日(金), 26日(月),
2月2日(月), 3日(火), 13日(金), 17日(火), 18日(水), 19日(木), 20日(金), 25日(水), 27日(金)
3月2日(月)18:00, 4日(水), 5日(木), 6日(金), 9日(月)
各日13:30開演(3月2日を除く)

でこぼこ
劇場で世界の凸凹にふれる



スペースシップ
中高生鑑賞事業公演「SPACeSHIPげきとも!」

「SPAC秋のシーズン」では各公演、平日に県内中高生を劇場に招待する中高生鑑賞事業を実施しています。毎年1万人以上が来場し、2003年度から現在までの累計鑑賞者数は25万人を超えます。『ガリレオ～ENDLESS TURN～』では、34校 4,675人の中高生が観劇予定です。



2025年 SPAC『ガリレオ』稽古風景
photo by 牧田奈津美 (F4,5)

◎演出家プロフィール

多田淳之介(ただ・じゅんのすけ)

演出家。東京デスロック主宰。古今東西の戯曲の上演、ダンス作品、観客参加型作品など多彩な作品を国内外で上演。創作活動と並行して公共劇場の芸術監督や自治体のアートディレクター、フェスティバルディレクターを歴任。全国の劇場や学校、地域施設でのこどもからシニア、外国人、障害のある方など様々な人々との創作やワークショップ、アートによる地域課題への取り組みを実践する。2013年日韓合作『ガモメカルメギ』にて韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人演出家として初受賞。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。SPACでは2018年に『歯車』(作:芥川龍之介)、2023年に『伊豆の踊子』(作:川端康成)を演出。『伊豆の踊子』は2025年12月、昭和女子大学人見記念講堂にて上演予定。



多田淳之介 ©平岩亨

●関連企画:

SPAC×ガリレオ×ほしびと『星空観望会』

公演期間中(1～2月)に開催予定(詳細は近日発表)
「やいづ ほしびとの集い」と初コラボ! 夜空に広がる無数の星々を、
天体望遠鏡でのぞいてみませんか?

<アーティストトーク>

1月18日(日) ゲスト:千代田修平(小学館マンガワン編集部 マンガ編集者)
登壇:多田淳之介
司会:石神夏希(「SPAC秋のシーズン2025-2026」アーティストック・ディレクター)
2月1日(日) 登壇:多田淳之介+出演俳優



千代田修平

<プレトーク>

舞台をよりおもしろく観劇できるポイントを紹介(各日13:05～13:15 / 2月14日、15日を除く)

<プレパフォーマンス>

県立清水南高等学校芸術科演劇専攻の生徒たちによる「ガリレオ～ENDLESS TURN～」についてのパフォーマンス
実施日:2月14日(土)・15日(日) 各日13:05開始(約10分) 会場:静岡芸術劇場2F カフェ・シンデレラ
出演:県立清水南高等学校芸術科演劇専攻 1年生
【無料・予約不要】※当日のチケットをお持ちでない方も鑑賞いただけます。

●鑑賞サポート: SPACでは、より多くの皆様に安心して観劇いただけるよう、さまざまなサポートをご用意しています。

- ・英語字幕 [2月14日、15日、3月7日のみ] 【無料・要予約】
- ・親子室 【要予約】
- ・託児サービス [1月24日(土)] 【1,000円・要予約】

◆チケット料金 [全席指定] 好評販売中(11/9(日)～)

一般:4,600円 / SPACの会個人会員一般:3,900円
U25・大学生・専門学校生:2,200円、高校生以下:1,100円
障がい者割引:3,200円
※未就学児の入場不可

◆お問い合わせ・チケット購入方法

SPACチケットセンター TEL:054-202-3399 (10:00～18:00、休業日を除く)

ウェブ予約 <https://spac.or.jp/ticket>

窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター (10:00～18:00、休業日を除く)

主催: SPAC-静岡県舞台芸術センター ふじのくに芸術祭共催事業

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
一般財団法人地域創造

「SPAC秋のシーズン2025-2026」メッセージ

〈きょうを生きるあなたとわたしのための演劇〉

わたしたち人間は生まれたときから、物語を生きています。家族という物語、社会という物語、時代という物語…。歳を重ねる中で学校や会社・性別・国籍など、物語はどんどん複雑になっていきます。でもその物語、あなたやわたしが望んで選んだものでしょうか？ 自分はいち登場人物に過ぎず物語を書き換えることはできない、と無意識に思い込んではいないでしょうか。

SPAC-静岡県舞台芸術センターはこの秋「物語を編み直す勇氣」をくれる3つの演劇作品をお届けします。生まれる場所は選べなくても、いま生きている物語は自分で編み直すことができます。そこからきっと新しい「物語のつづき」が生まれるはずです。

石神夏希

「SPAC秋のシーズン2025-2026」アーティスティック・ディレクター

* * TOPICS * *

●Podcast & note を使った企画をスタート／特設ページもオープン (10月より順次配信)

秋のシーズン2025-2026では、作品の魅力や推しポイントを演出家や俳優、関わるアーティストがざっくばらんにおしゃべりするトーク企画をPodcastとnoteでスタートしました。観劇の前後にお楽しみいただけます。

#1 #2 ゲスト：多田淳之介 (台本・演出)

#3 ゲスト：カミイケタクヤ (美術)

#4 ゲスト：濱吉清太郎 (演出助手)、渡邊清楓 (出演俳優)

■ SPAC (Shizuoka Performing Arts Center)

公益財団法人静岡県舞台芸術センター (Shizuoka Performing Arts Center : SPAC) は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。2025年、SPACは財団設立30周年を迎え、演劇を通して磨き上げてきた「人」と「技術」を、企業やコミュニティと連携しながら福祉・観光・人材育成など地域の活性や課題解決に活用しています。



静岡芸術劇場 photo by Eiji Nakao